

市町村名	プラン計画名	市町村教育委員会のアクションプラン・計画等のまとめ		大分教育事務所											
津久見市	① 学力向上 アクションプラン	目標 ア 児童・生徒の学力向上に係る目標(H27年度まで) 1 県調査・全国調査において、全教科で全国平均を上回る。 2 低学力層の児童・生徒の数を現在の3分の2以内に減少させる イ 学力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための目標 1 教務主任を格とした組織的に学力向上をめざす校内推進体制を確立する。 2 PDCAサイクルに基づいた実効性のある学力向上推進プランを各校で確立する。 3 学校評価により学力向上の検証改善サイクルを確立する。 4 各種学力向上会議や学力向上研修会の内容の充実を図る。	行動計画等 ア 児童・生徒の学力向上に係る市町村教育委員会や学校における行動 1 数学における習熟度別学習を徹底し、それぞれの学力層に応じた指導を推進 2 学校図書館を主体的に活用し、読書量を増加させるとともに、調べ学習・問題解決学習ができる児童・生徒の育成 3 各教科における言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上 イ 学力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校における行動 1 管内の組織的な課題解決を進行管理する教務主任会議の実施 ・市教委主催による教務主任会議の設置 など 2 校内研修(研究)の在り方を見直し ・学力向上を中心とした校内研修の実施 ・教務主任・研究主任を核とした組織的な校内研究体制の確立 など 3 司書教諭を核とした学校図書館を活用した管内全校指導体制の確立 ・学校図書館を活用した調べ学習・問題解決学習(全教科で授業実践) など 4 指導教諭、学力向上支援教員による活用型授業の普及 ・指導教諭・学力向上支援教員で数学・算数・国語の授業改善を図る。 ・学力向上支援教員による公開授業で指導方法を広める。 など 5 習熟度別指導を強化するための指導方法の工夫改善加配の活用 ・中学校で習熟度に応じた指導を行う。 6 教育課程研究協議会の充実 ・教科部会における提案授業・部会研究の組織的・計画的な実施	H25達成指標 ○全国調査で、全ての教科で全国平均を超えた学校数 小(2/6)、中(2/4) ○下位層(1段階)の児童生徒の率 小・中とも10%以内 ○全国調査B問題の平均正答数 全教科標準化得点99以上											
		H26～H27達成指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○全国調査で、全ての教科で全国平均を超えた学校数</td> <td>小(4/6) 中(3/4)</td> <td>小(6/6) 中(4/4)</td> </tr> <tr> <td>○下位層(1段階)の児童生徒の率</td> <td>小・中とも8%以内</td> <td>小・中とも6%以内</td> </tr> <tr> <td>○全国調査B問題の平均正答数</td> <td>全教科標準化得点100以上</td> <td>全教科標準化得点101以上</td> </tr> </tbody> </table>		26年度	27年度	○全国調査で、全ての教科で全国平均を超えた学校数	小(4/6) 中(3/4)	小(6/6) 中(4/4)	○下位層(1段階)の児童生徒の率	小・中とも8%以内	小・中とも6%以内	○全国調査B問題の平均正答数	全教科標準化得点100以上
		26年度	27年度												
	○全国調査で、全ての教科で全国平均を超えた学校数	小(4/6) 中(3/4)	小(6/6) 中(4/4)												
○下位層(1段階)の児童生徒の率	小・中とも8%以内	小・中とも6%以内													
○全国調査B問題の平均正答数	全教科標準化得点100以上	全教科標準化得点101以上													
② 体力向上 アクションプラン	目標 ア 児童・生徒の体力に係る目標(H27まで) ・運動好きな児童・生徒の割合を80%以上にする。 ・運動・スポーツをほとんどしない児童・生徒の割合を現状から半減する。 ・体力テストにおいて、全国平均以上である項目の割合を60%以上にする。 イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための目標 ・小学校体育専科教員による指導計画や指導方法を広め、各校において実践する。 ・すべての学校の体育主任が、体力向上の企画・提案を行い、全教職員で取り組む。 ・管理職会議・体育主任会議等とおして体力向上に対する教員の意識を高める。	行動計画等 ア 児童・生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校における行動 ・「運動することを好きになり、運動の機会を広げる」を共通テーマとして取り組む。 ・体育専科教員活用推進校によるモデルプランの提示や実践事例の公開する。 ・市教育委員会による学校毎の取組に対する指導・助言を行う。 ・各校のホームページで、体力向上に関する取組の紹介を積極的に行う。 ・管理職会議や体育主任会議等で優良事例等の取組の交流を行う。 イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校における行動 ・体育主任の役割を明確にし、体力向上の核として機能させる。 ・体育専科教員の活用方法の工夫を行う。 ・管理職の指導の下、体育主任を中心とした学校全体での「一校一実践」の推進を行う。 ・体育専科教員による「一校一実践」の取り組みのアドバイスを行う。 ・各校において体力向上推進チームを位置づけ、校内の体育環境の整備、体育的行事の工夫改善、体力向上計画の検討等に組織的に取り組む。	H25達成指標 ・運動好きな児童・生徒の割合 70%以上 ・体力テストにおいて全国平均以上である項目の割合 40%以上												
	H26～H27達成指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・運動好きな児童・生徒の割合</td> <td>75%以上</td> <td>80%以上</td> </tr> <tr> <td>・体力テストにおいて全国平均以上である項目の割合</td> <td>50%以上</td> <td>60%以上</td> </tr> </tbody> </table>		H26	H27	・運動好きな児童・生徒の割合	75%以上	80%以上	・体力テストにおいて全国平均以上である項目の割合	50%以上	60%以上			
	H26	H27													
・運動好きな児童・生徒の割合	75%以上	80%以上													
・体力テストにおいて全国平均以上である項目の割合	50%以上	60%以上													
③ 組織力 向上計画	行動計画等 ○学校評価 ・県教育委員会が作成した「学校評価の手引き」を基に学校評価ガイドラインの作成を行う ・平成25年度当初(4月)に学校評価ガイドラインに沿って、各学校の学校評価の在り方について指導し、取組計画の提出を求める ・新しい学校評価への取組状況を共有する教務主任会議を開催する ・各校のホームページで学校評価を公表する ○学校管理規則改正 ・主任の任命に係る市教委による承認制を導入する ・校長を補助する機関として、運営委員会を設置する ・職員会議の「置くことができる」規定と役割の明確化 ○学校運営体制の充実 ・運営委員会や、職員会議が校務分掌表に適性に位置づけられるように指導する ・教育委員会が各校の主任の承認を行い校務分掌表に主要主任を明確に位置づける ・教務主任などの主要主任についてのそれぞれ担う役割について学校事情に応じた課題も含め具体的に示すよう指導する														
④ 先進的・ 先導的取組	取組内容・行動計画等 —														